

I 実践

1 研究主題

思いやりと感謝の気持ちを育てる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は「心豊かで進んで学ぶ、たくましい児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」ことを目標としている。

そこで体験学習を中心として、温かく接する場の設定をすることで、児童に思いやりと感謝の気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究内容

異学年集団との交流や地域の人たちとの交流など温かく関わる場を設定することにより、お互いに思いやりの気持ちを持つことができる児童の育成を図る。

2 実践内容

(1) 異学年交流

ア ハッピータイム(1～6年・昼休み)

本校では、縦割り班活動として「ハッピータイム」を設定している。6年がリーダーとなり、低学年と一緒に遊ぶ中でお互いの関わり方を学ぶものである。

1組が「ハッピー赤」、2組が「ハッピー黄」、3組が「ハッピー青」とし縦割り班で活動する。遊んでいる最中に遊び方が分からなくなったり、友だちとトラブルが発生したりした時も、高学年が説明したり、お互いの話を聞いたりして、お互いが思いやりをもてるようにしている。遊びを終えると高学年が、必ず次に遊びたいものについて低学年に聞くなど、異学年同士の交流を深めるものである。

イ みんなで遊ぼう集会(1～6年・特別活動)

5・6年生が主体的にいろいろな遊びを考え、遊ぶコーナーを準備し、1～4年生は、グループになり、各コーナーを回るものである。高学年が低学年も楽しく遊べる内容を企画し運営する中で、異学年間の絆を深めたり、思いやりの心を育むようにする。

ウ 豊っ子フェスティバル(1・2年生・生活科)

1・2年生が生活科の学習の中で行っている。2年生がいろいろと遊ぶコーナーを計画・準備するものである。招待された1年生は、グループとなって各コーナーを回り、2年生に遊び方を聞いたり、一緒に遊んだりする。

(2) 地域の人たちとの交流

ア 豊浦の昔発見!!(3年生・総合的な学習の時間)

地域の人たちとの出会いや交流を通して、昔の暮らしについて自分の興味・関心をもとに調べたり、体験したりする活動である。さらに、地域の昔の暮らしに関する学習でお年寄りの方々との交流を深め、昔の遊びや食生活について一緒に体験したり、話を聞いたりする。体験の後、お年寄りの人たちと交流給食を行う。

イ 花いっぱい運動(6年・総合的な学習の時間)

町づくり推進委員会の方々とともに、六号国道ぞいの花壇で花を育てている。心を込めて花を育てることは情操教育の上でも役立っている。

(3) 居住地校交流(日立特別支援学校の在校児童)

1学期は3年3組で書写と給食の時間に交流した。2学期は、1学期同様3年3組で体育(マット運動・長縄)・給食などの活動を通して交流した。日立特別支援学校に在籍する3年生児童2名と本校の3年生が交流を行っている。

3 成果

- ・ハッピータイムは、毎回どの児童も楽しみにしている。高学年もハッピータイムとなると下級生を迎えにいき、遊び方も親身になって教えている。核家族化が進む中でこうした縦割り班活動を設定することは、お互いの立場になって接する思いやりの心を育てる上で大きな役割を果たしている。
- ・地域の方々と一緒に活動する児童はとても生き生きとしていた。おまんじゅう作りではグループになり、作り方を一生懸命聞き、楽しく活動することができた。交流給食では、児童が主体的に配膳など行っていた。交流給食の中でお年寄りたちから昔の給食のメニューや遊び・勉強の内容などを聞くことができ、子どもたちは「脱脂粉乳の味ってどんなのかなあ。好き嫌いあるけど、昔のメニューにくらべたら、恵まれているんだね。」「手作りのおまんじゅうってこんなにふわふわしているんだね。お母さんと一緒に作ろう。作り方のメモ、後でください。」などとお年寄りとの話が弾んだ。また、一人のお年寄りは「骨折した孫が、クラスみんなにお世話になって本当にありがたかった。昇降口で荷物を持ってくれたり・・・、この場をかりてみんなにありがとうと言いたい。」と挨拶をしていただいた。子どもたちも照れていた様子だったが、お年寄りの感謝の言葉に、みな真剣に聞き入っていた。終わったあとの児童たちからの感想は「おまんじゅう作りでは、作り方を教えてくれた先生たちがとてもやさしかったです。」「こねるところが、むずかしいからがんばってと言われうれしかったです。」「お手玉がなかなかできなかったけど、後すこしのところでいいんだよと励まされてうれしかったです。」などとあり、お年寄りの方々の思いやりに触れ、児童にも思いやりの大切さがめばえたことがわかった。
- ・居住地校交流では、事前に打ち合わせをしておくことで、協力学級の仲と一緒に学習内容を楽しんだり、ふれあったりすることができた。3年3組で行った書写では、筆の持ち方や半紙の置き方などついて、児童たちから自然に教えるなど手を貸す姿が見られ、思いやりの心がめばえた。

II 今後の課題

- ・児童は、思いやりや感謝の気持ちをもって接することの大切さを分かっているが、自分の行動に生かすことがなかなか難しい。今後も、異学年交流、地域交流、居住地校交流などいろいろな人との関わりや体験を充実させて、人権意識を高めていきたい。
- ・教職員の人権教育に対する研修の充実を図り、理解を深め学校教育の活動の中で更に人権教育を進めることが必要である。
- ・児童が身につけた思いやりと感謝の気持ちをより確かなものにするため、児童が自分で考えたり、表現したりする参加型の人権学習を積極的に取り入れることも必要である。そのために、道徳・総合的な学習の時間や特別活動、学級活動、生徒指導など学校生活の中で人権教育の充実を図っていきたい。
- ・月一回など継続的に人権週間を設ける必要がある。その際、カードなどに1日の学校生活の中で、友だちに思いやりをもてたかなど自分の行動を振り返り、事後指導として教師のコメントを書くなどして、教職員・児童ともに人権教育のさらなる向上を図りたい。

III 人権コーナー設置の様子

